

私の「ストラド体験」



中嶋嶺雄

アジア太平洋大学交流機構国際事務総長

幼い頃から学んだヴァイオリンは、玄人はだしの腕を持つ。
美しい伸びと艶を持つその音色は、常に弾かれているからこそ輝きを増すという。
聴き手としての彼もまた、名器に魅せられている一人だ。

古辛

ストラディヴァリウスで他の楽器と例
が、一番違うかと言えば、やっぱり音の
伸びと艶だと思っただけです。ストラ
ディヴァリウスについては、その音につい
ての謎解きが進んでいるし、テクノロジー
を駆使した解明もあるんだけど、十
七世紀から十八世紀に作られた楽器
なのに今でも生命を失わないだけでは
なくて、弾き手によつて本当に音楽が
立体的に生きてくる。そこにストラデ
イヴァリウスの大きな価値があると思
います。

私自身は所有したことはありません
が、二、三回弾いたことはあります。
中でも一番思い出に残っているのは、台
湾總統だった李登輝さんの誕生日にお
祝いする食事会で弾いた時のこととし
ようか。一九九二年一月三日のこと
でしたが、その日は農暦で李登輝さん
の誕生日。ご家族やご

く親しい友人だけによるお祝いの席
に、私たち夫婦が主賓として呼ばれた
んです。李登輝さん——台湾の経団連
会長だった李振甫さんの甥っ子です
れども——やま治医の何既明先生、そ
れにお孫さんをはじめとするご家族た
ちが集まり、中華料理を囲みました。
その時、隣の応接間では台湾の新古
典弦楽四重奏団という台湾を代表す
るカルテットが演奏したんです。そし
て、その日、彼らは台湾の代表的な企
業グループである奇美集団が所蔵して
いるストラディヴァリウスを使っていた
んです。奇美集団は許文龍さんとい
う方が率いていて、許さんは李登輝さん
の友だちなんです。それでそういうこ
とになったのだと思います。

ストラディヴァリウスはヴァイオリン
だけだったんですが、確かその時に使
たのは「ラシキエン」で、李登輝夫人の
曾文恵さんが僕にも一緒に弾くよう
にと、その場でまず「トロイメ
ライ」を独奏し、次にカルテットに加わ
って「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
の第一楽章を私が第一ヴァイオリンで
弾いたんです。その時は、やっぱりスト
ラディヴァリウスは凄いなと思っただ
けです。ただ、率直なところを言います
と、やっぱりヴァイオリンというのは弾き慣
れている自分の楽器でないと弾きにく
いものなんです。いくら名器といつて
もね(笑)。

台湾にも奇美集団のように
世界的なストラディヴァリウスを所有している団体があります。
李登輝さんのお誕生日にその名器を弾く機会がありましたが、
名器とは言っても、やっぱり、
弾き慣れている自分のヴァイオリンでないと弾き難いものです。



台湾の奇美集団が保有するコレクションをまとめた
「The Chi-Mei Collection of Fine Violins」

なかじま・みねお © 1936年、松本市生まれ。アジア太平洋大学交流機構の国際事務総長、前・東京外国語大学学長。60年、東京外国語大学中国科卒業後、東京大学大学院国際関係論課程修了。66年から東京外国語大学の教壇に立つ。専攻は国際関係論・現代中国学・アジア地域研究で、世界有数の中国通として知られる。評論集「北京烈烈」(81年度サントリー学芸賞受賞)はじめ、「現代中国論」「中国の悲劇」など著書多数。玄人はだしのヴァイオリンは、松本音楽院で鈴木鎮一門下生として学んだ本格派。

MOSTLY

クラシック音楽を楽しむための情報誌
モーストリー・クラシック

2003年4月15日(毎月1回15日発行)通巻73号
2000年11月27日第3種郵便物認可 定価 500円

2003
VOL.73
5

CLASSIC

[ミート・ザ・クラシック]

假屋崎省吾

[木之下晃のマエストロ列伝]

マウリツィオ・ポリーニ

[トーキョー・イン・アウト]

ヨーヨー・マ

[オペラ鑑賞委員会]

ばらの騎士

[当代巨匠伝説]

マルタ・アルゲリッチ

[谷口久美の匂の人に逢いたい]

花岡浩司・律子

[クローズアップ]

**大阪シンフォニカー響、ハノイへ
藤原歌劇団、韓国公演**

[市川森一のカクテルシアター]

アミーナ

[夢中人]

茂木大輔の艦船模型

[Orchestra Today]

スロヴァキア・フィル

特集

ストラディヴァリウス という小悪魔